

市史だより

Gači がち mājāa まじゃあ

第6号・2005年8月31日(水)発行
年4回 (5・8・11・2月発行)

問い合わせ・情報提供先

☎ * (* ☎ * ☎

☎ (098)893-4431

Fax (098)893-4434

編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係

〒901-2710 宜野湾市野嵩1-1-2

Kyoiku08@ami.city.ginowan.okinawa.jp

☆フチャギ餅でお月見を☆



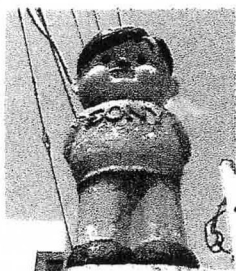
ウガンヌカタの拝所の前を7周する様子 (野嵩のウチチウマチー・1980年代)

夏の暑さも日に日に和らぎ始め、旧暦8月15日(新暦9月18日)が近付いてきました。その日は、豊作を祝う「十五夜」の行事が県内各地で行われます。ゆでた小豆をまぶしたフチャギ餅(小豆は星、月は餅を意味する)を神棚に供える家庭や、庭先にフチャギ餅とススキの葉を飾ってお月見をしました。

大謝名と普天間では獅子舞が行われ、野嵩では「ウチチウマチー(お月お祭り)」が行われます。ウチチウマチーの行事は戦後途絶えたものの、1983(昭和58)年から老人会によって執り行われています。夕方になり、月が空に顔を出し始める頃、集落の北東側にあるウガンヌカタの拝所で祈願をし、太鼓を打ち、歌い踊りながら拝所の前を輪になって7周します。その後、公民館の隣にあるトゥンまで、道ズネーの行列が太鼓に合わせて歌いながら行進します。トゥンでも祈願後には、同様に歌い踊りながら7周します。なお、子年と午年の十五夜には、7年マールの村芝居が行われるので、ウチチウマチーは祈願のみとなり、豊作の祝いと感謝を願います。みなさんも、十五夜にはフチャギ餅を用意して、満月の光に照らされながら、庭先でお月見を楽しみ、涼んでみてはいかがでしょうか?

ソニー坊やを追え！ PART2

『がちまやあ4号（2005年2月28日発行）』のなかで、“ソニー坊や”に関する記事を掲載しましたが、みなさんは“ソニー坊や”のことを覚えていますか？その後もソニー坊やを追い続け、ソニー坊やのナゾが解明されました。そこで、これまでに明らかになったことを報告したいと思います。



僕はソニー坊や！ソニーの宣伝用のキャラクターとして誕生した僕には、本部町・西原町・宜野湾市・旧具志川（現うるま）市・糸満市の市町村に仲間が5名（全長約2m、コンクリート製の5体の像）いることを前回、みなさんにお知らせしましたね♪

ソニー坊や建立秘話！！

宜野湾市のソニー坊やは、市民駐車場から普天間向けへ約100m付近、330号沿いにある野嵩のタクシー会社（合名会社琉球交通）の敷地内にひっそりと立ちつくしています。

今から丁度40年前の1965（昭和40）年にタクシー会社は、野嵩に引っ越して来ました。引っ越してから間もなく、当時、普天間にあった普天間警察署の交通課から交通安全のアピールのために、ソニー坊やの設置の要請がなされたそうです。つまり、ソニー坊やがこの場所から交通安全を見守って既に40年余りが経過していることを意味します。

坊や？おじさん？

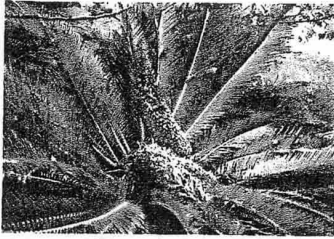
野嵩に立ちつくして40数年を経過したソニー坊や…。現在、ソニー坊やは40歳余りであることが今回、明らかになりました。そんなソニー坊やを“坊や”と呼んでもよいのかと疑問は残ります。また、ソニーの宣伝用のキャラクターであるはずのソニー坊やがなぜ、交通安全のキャラクターとして設置されているのか？という点は未だ不明で、ナゾは深まるばかりです。しかし、その愛らしさは今でも変わることなく、炎天下の日差しの中をひたすら耐え続けながら、無言でたたずんでいるのです。



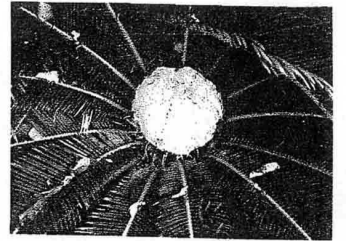
タクシー会社の敷地内にたたずむソニー坊や



* 情報を寄せていただいた、タクシー会社のみなさま、ご協力ありがとうございました。

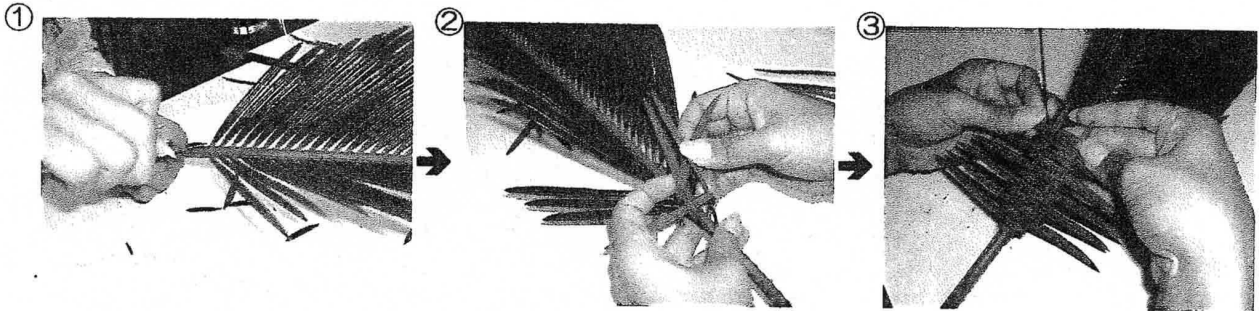


ソテツの葉で 虫かごを作ってみよう!



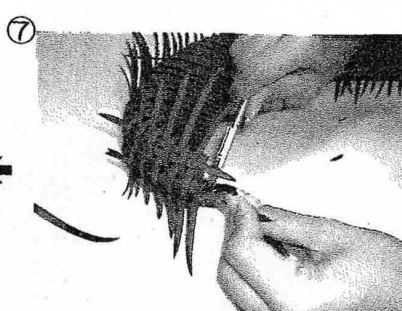
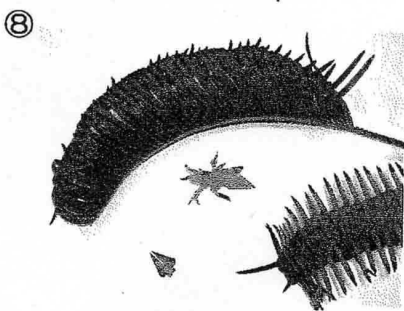
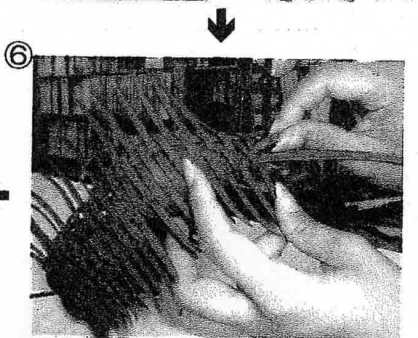
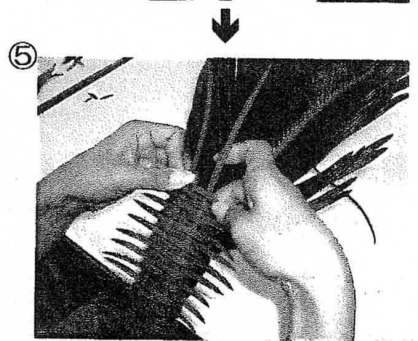
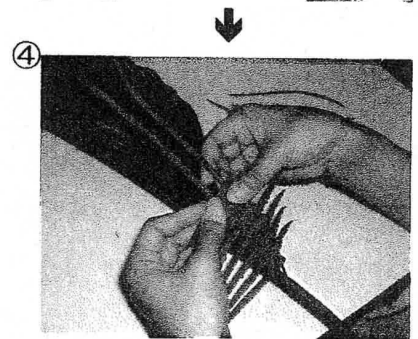
ソテツの大きなものは、高さ5mほどに育ちます。葉っぱは長さ70~140センチ、5~6月にかけてオスの花（写真左上）とメスの花（写真右上）が別々に咲く不思議な植物です。その葉っぱは、昔、ほうきになったり虫かごになったり、身近にある便利な材料でした。売り物の虫かごとちがって、ソテツの葉で作る虫かごは、入れたい虫の大きさに合わせて作ることができるすぐれもの☆ じょうずに編みあげると、美術品のようきれいな仕上がりの虫かごができあがります。秋の虫の音を、ソテツの葉の虫かごを通して聞いてみるのも、風流かもしれませんね♪最初は一人でするのは難しいかもしれません。お父さんおじいちゃんに習いながら作ってみましょう。案外、身近なところに虫かご作りの達人がいるかも?!

スタート♪



☆ 作り方 ☆

- ① 短い葉を切り落とす
- ② 編み込みの軸となる葉を、左右から1本ずつ取って持つ
- ③ 左右の葉を交互に、それぞれ軸の上⇒下と編んでいく
- ④ 軸の葉が短くなったら、あらかじめ用意しておいた葉を接ぎます
- ⑤ ③・④を繰り返しながら、どんどん編んでいく
- ⑥ 終わりたい大きさまで編んだら、編み口をすぼめて編み、葉を軸の葉と逆方向に差して口をふさぐ
- ⑦ 余分な葉を切り落とす
- ⑧ できあがり!



キャリア・スタート・ウィーク

文化課のお仕事にチャレンジ♪

市内の中学生がキャリア・スタート・ウィーク(職場体験学習)の一環として、文化課にやってきました。キャリア・スタート・ウィークとは、事業所の人と共に働くことで、仕事の大切さ・大変さ・楽しさを肌で感じとることにより、自らの将来性を見通し、進路選択に役立ててもらうことを目的としています。これまでに、6月27日から7月1日に真志喜中学校2年生の具志堅さん・比嘉さん・平田さん・平良さん・山城さん、宜野湾中学校2年生の嘉数さん・嘉手苅さん・譜久原さん・山城さんの9名、7月4日から8日にかけては嘉数中学校2年生の新垣さん・玉寄さん・比嘉さん・仲村さんの4名のみなさんがやってきました。

文化課のうち、文化財保護係では、森の川の清掃や、発掘された遺物の整理を、文化振興係では看板づくりを体験しました。市史編集係では、慰霊の日に向けたパネル展示会の見学や、新聞に掲載された宜野湾に関する記事の抽出作業、市史に関する図書ちゅうしゅつの登録と整理、戦争体験の聞き取り調査のテープ起こし作業などを体験してもらいました。

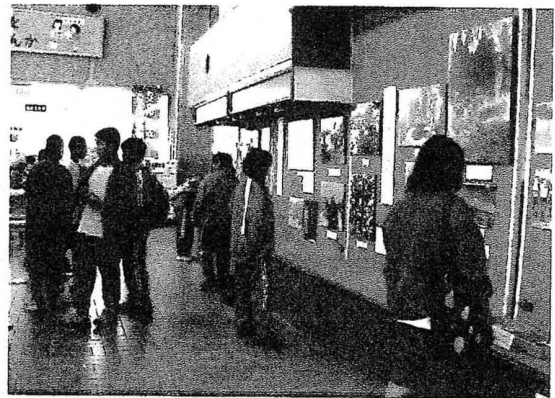
聞き取り調査のテープ起こし作業では、市内のおじいちゃん・おばあちゃんに戦時中から戦後の生活についてお話

していただいた、録音テープを聞き直して、文章にする作業を行いました。おじいちゃん・おばあちゃん達の方言まじりのお話しは、普段、方言を聞きなれていない生徒さんにとっては、聞き取ることは難しかったようです。

宜野湾関係の新聞記事の抽出作業では、宜野湾を宜野座と間違えてチェックしている生徒さんや、宜野湾の字名を覚えていなかったりと驚くこともありました。なかには、将来図書館司書になりたいという生徒さんもあり、熱心に新聞のチェックや図書の登録の仕方を尋ねてくることもありました。新聞を読み慣れてないせい、作業を終える頃には少々お疲れ気味でしたが、これを機会に新聞にも目を通し、宜野湾市のことにもっと関心を持ってくださいね☆

この体験を通じて、みなさんは自分の進路選択に向けて、これから何をすべきか考え、自分自身を見つめ直すきっかけになりましたか？みなさんの頑張りのおかげで、作業もはかどりととも助かりました。お疲れ様でした!!

10月末には普天間中学校の生徒さんも文化課に来る予定です。みなさんが来るのを心待ちにしています。



展示会を見学する中学生のみなさん

✿ 資料を探しています ✿

宜野湾市史では資料を探しています。ご自宅に眠る昔の写真や書簡などはございませんか？

それらは今や貴重な資料となっています。もしございましたら、下記連絡先までご一報ください。

連絡先：文化課市史編集係

TEL 098-893-4431

FAX 098-893-4434

すこんてん 琉球王府時代の図根点、ハル石！

みなさん、“ハル石”って聞いたことがありますか？正しくは、印部土手石（しるべどていし）と言います。方言では「シルビグワー」「ドゥティグワー」と言いますが、宜野湾市では「ルリグワー」「バンドゥイ」と呼ぶ場合もあります。

このハル石は、一見、石に読みづらい文字が刻まれているので、「何だろう？」と不思議に思うかもしれませんが、これは琉球王府時代、1737～50年に行われた^{びんざんげんち}元文検地で、田畑等の土地を測量するために設置された図根点なのです。ハル石の大きさは、およそ高さ30～75センチ、幅13～50センチで、表面に平仮名や片仮名で「い」「ろ」「は」などの順序を示す記号と、所在を示す原名（ハルナー）が刻まれています。石の素材は、主に「ニービヌフニ」と呼ばれる^{びりゅうさがん}微粒砂岩が使われています。

宜野湾市内では、言い伝えも含めて30個が確認され、そのうち17個が現存していますが、さらに増える可能性があります。伊佐にある「たけたう原」銘のハル石は、ハル石の周囲を土手が崩れないよう、石を積み回しており、ハル石としては保存状態が良く、市の史跡に指定されています。

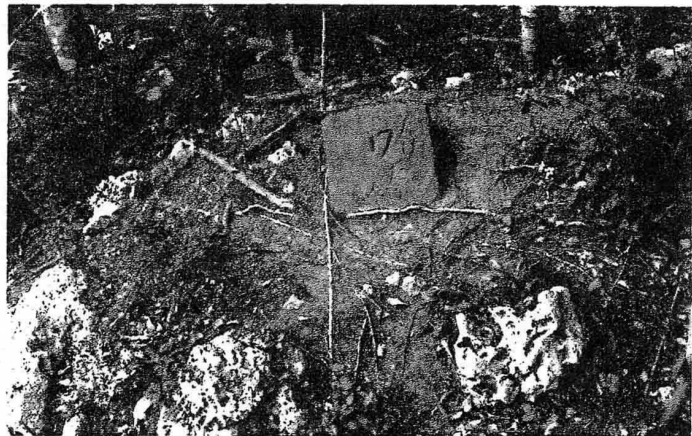
【 参考文献 】

沖縄タイムス社『沖縄大百科事典』中（1983）

宜野湾市教育委員会『ぎのわんの文化財』（2001）



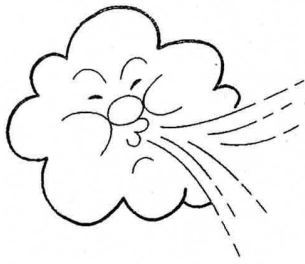
ハル石「ヨふてま原」（左）、
「く □（不明）ては奈原」（右）と刻まれている。



伊佐の「たけたう原」銘のハル石。
ハル石の周囲に石を積み回している。

WANTED!! ハル石を探しています！

文化課市史編集係では、宜野湾市内のハル石調査を行っています。琉球王府時代の名残の一つであるハル石の寸法、材質、刻銘された文字、言い伝え、写真撮影、拓本取りの記録調査を行います。自治会、もしくは個人で保管されている方がいらっしゃれば、調査へのご協力のほど、お願い致します。また、ハル石の目撃情報もお待ちしております。



行政資料にみる戦後の宜野湾 (6)

～デラ台風と「1マイル制限」～



前号では、人びとが資材を集めて「規格家」を建設するに至った経緯について紹介しました。人びとは軍用地に大きく翻弄されながらも、戦後の生活を営んでいました。しかし、今度は自然災害が沖縄の人びとに立ちまわります。1945（昭和20）年から1950（昭和25）年にかけて、大型の台風が相次いで沖縄に上陸し、人びとの生活を脅かしたのです。今回は1949（昭和24）年6月のデラ台風による宜野湾村の被害状況と、復旧への取り組みをみていきたいと思います。

○戦後の台風

この時期の沖縄に上陸した主な台風として、ルイズ（1945年10月）、リビー（1948年10月）、デラ、グロリア（1949年7月）などが挙げられます。これらの台風はどれも大型で勢力が強く、上陸後は沖縄諸島全域で猛威をふるい、民家や公共の建物を破壊し、さらには農作物も大きな被害を受けました。特にグロリア台風の勢いはきわめて強く、米軍嘉手納飛行隊の観測によると、グロリア台風の最大瞬間風速は実に175マイル（約77.8m）を記録したようです。

颱風被害調査報告書

○デラ台風と暴風被害

一方のデラ台風も、最大風速41mを記録し、人びとの生活に大きな被害を与えました。デラ台風によって宜野湾村だけでも45戸の民家が全壊、半壊した民家も80戸を上回り、学校や区事務所、売店などの公共の建物にも大きな被害を出しました（資料1）。

1949年6月20日 宜野湾村

住家	種別	棟数	戸数	坪数	トコナ	タバ	ゴロ	備考
	被害別							
住家	全壊	45	45	205坪	6	36	3	
	半壊	80	80	410坪	21	47	14	
非住家	種別	棟数	戸数	坪数	トコナ	タバ	ゴロ	備考
	被害別							
非住家	全壊	12		130坪	4	8		学校1棟 区事務所1棟 売店1棟
	半壊	9		100坪	1	7	1	学校6棟 診療所1棟 区事務所1棟 売店1棟

備考 人畜の被害なし

資料1. 「暴風被害報告について」

1949年6月21日



当時の建物は「規格家」やコンセット（米軍の兵舎に使用されていた^{かまぼこ}蒲鉾型の建物。兵員の移動に伴って民間に払い下げられ、学校や役場などの公共の建物に利用されました）のような、設計がきわめて簡易なものだったので、とても暴風に耐えうることができなかつたのでしよう。また、戦災によって防風林を焼失していたことも、台風被害の拡大に拍車をかけた原因の一つであったと思われます。

○復旧をめぐる

人びとは復旧作業に取り組みますが、テラ台風からの復旧には米軍政府の政令によって制約が加えられていました。1949年6月17日、軍政府は軍政府指令第17号「原住民建造物」を発令、軍施設から1マイル（約1.6km）以内における、あらゆる建物の新築・改築を禁じたのでした。つまり、通称「1^{マイル}制限」と呼ばれるこの指令によって、軍施設から1マイル以内の、台風によって倒壊した民家や建物を修復できなくなつたのです。

宜野湾村ではただちに対策を講じました。7月5日には中頭地区指令第17号対策協議会が開かれ、協議会の席上で軍は修正を示唆、7月12日になって「1哩制限」は修正されました。宜野湾村の行政資料「建設関係書」（資料2）によると、軍施設から1マイル以内の現にある建物は、村長の許可書が得られれば修復してもよいとあります。

村長記

家屋建築許可証
 一 建築場所
 二 建築の種類
 三 建築の使用種別
 四 建築の呼称
 五 建築期間
 六 右の通り建築が一度許可されたが、許可相成るに
 行願あり

記

一 軍施設から一哩以内にある建物を台風により損傷を受けたものは、村長の許可書を得た後復旧又は修復してもよい。
 一 軍施設から一哩以内にある却法は、村長の許可書を得た後現にある建造物を改築、変更、修復してもよい。
 一 前二項の許可書を得た上、その日記には必ず録すること

村長 宜野湾 第二六六 師
 各 区 長 殿
 件 家屋建築について
 一九四九年七月十二日附軍情報課発表の主題の件たる通知板
 差支へらして、
 記 書 日 記 一 七 月 五 日
 決 裁 日 記 一 七 月 五 日
 発 行 日 記 一 七 月 五 日

資料2 「家屋建築について」
 1949年7月21日
 宜野湾村から各区長へ伝達
 されました。

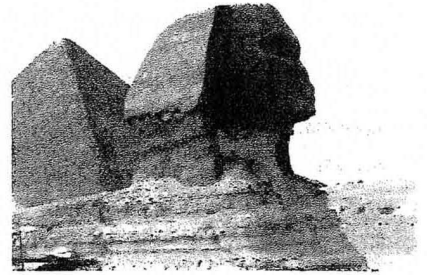


* 復帰前の沖縄では、アメリカ式にならって、台風の名前には「テラ」「グロリア」のように洋風な女性の名前が付けられていました。こんなところにも「アメリカ世」の一端がうかがえます。



ムヌアカシェー(なぞなぞ)にチャレンジ！！

なぞなぞは、世界中に遠い昔からありました。ギリシャ神話にも、有名なスフィンクスのなぞなぞの話がありますね。スフィンクスは、通りかかった人々になぞをかけ、なぞを解くことができなかった人は命を落とすことに…。でも、ある日、オイティプスという王様に、とうとうなぞを解かれたスフィンクスは、海に身を投げて死んだといひます。



沖縄でも昔、なぞなぞは^{まじな}呪いや宗教的な問答として行われていたことがあったそうです。なぞをかけられて解けないと、負けになったとも言われています。でも、それも、もう昔の話。子どもたちにとって、なぞなぞは、何も無くてもできる手軽で楽しい遊びとして、長く親しまれてきました。

宜野湾でも、市史の調査の中で、なぞなぞについて調べたことがありました。そのうちのいくつかを、ここでご紹介しましょう。方言のなぞなぞは、ちょっと難しいかもしれませんね。お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんから教わりながら、解いてみて下さい。もしかすると、解く前に先に答えを言われてしまうかもしれませんよ (^-)

初級者編 ☆

眠ティン見ユセー荷ヤガ

(眠っていても見えるのはなーに)

◇ヒント◇ 良いものや、わるいもの、こわいものもあります

中級者編 ☆☆

白人小達ガ、幾人ンシーチ帯ソーセー荷ヤガ

(白い小人たちがたくさんで一本の帯をしているものなーに)

◇ヒント◇ みんな大好き。夏は出番が多くなります(^-^)/

上級者編 ☆☆☆

上カラ読ティン、下から読ティン、向ヌ名ヤ何処人ガ

(上から読んでも下から読んでも同じ名の人はどこの人)

◇ヒント◇ 宜野湾市内の、シーサーで有名な字の人です

答えは、学校の図書館や市立図書館にある「宜野湾市史 五 資料編 四」の768ページ～771ページで見つけることができます。これ以外にも、34のなぞなぞが、のっています ◎